

「すっかりアフリック」

JICAセネガル事務所メールマガジン 第115号

2016年03月01日配信

目次

◆巻頭言

「国民和解」への違和感

・セネガル事務所所長
加藤隆一

◆活動紹介

「タンバクンダ、ケドゥグ、マタム州村落衛生改善プロジェクト次への一歩」

・プロジェクト総括
楠田一千代

◆われらが協力隊！

「Jambaar(働き者)な若い先生たち」

・26年度1次隊
小学校教育 石動徳子

「教員養成に携わったこと」

・26年度1次隊
小学校教育 松岡美希子

◆コラム

「兼轄国からこんにちは！ ～モーリタニア編3モーリタニアの正餐～」

・ヌアディブ漁港拡張整備計画 通訳 橋爪雅彦

◆ひといき

「ダカールマラソンに参加して」

・企画調査員(ボランティア事業)
笹子悠歩

◆事務所より

◆巻頭言 「国民和解」への違和感

セネガル事務所所長 加藤隆一

兼轄国であるマリ的情勢はこの3年間常に私の懸念事項であり続けている。

私がセネガルに着任した当時(2012年11月)、マリ北部は複数のイスラム武装勢力に実効支配されていた。イスラム武装勢力南下を受けた電撃的な仏軍事介入(2013年1月)、大統領選挙(同年8月)を経て、ケイタ大統領による内政固めが行われ、翌2014年7月にはアルジェリアの調停による「アルジェ・プロセス」という名の国民和解プロセスが開始される。難産の末、2015年6月に「アルジェ合意」が署名され、アルジェ合意に参画したイスラム武装勢力であり、対立関係にあった「調整グループ」と「プラットフォームグループ」間の対話には前進が見られるが、マリ政府との協議は一進一退。一方この間、プロセスに参加していない AQMI、アンサール・ディーンと言った過激派グループが勢いを取り戻し、外国人をターゲットにした同年3月の「ラ・テラス事件」や、記憶に新しい11月の「ホテル・ラディソン襲撃事件」を引き起こした。さらには国連 PKO(MINUSMA)やマリ軍への攻撃も止むことがなく、犠牲者も増えている。MINUSMA はすでに65名もの犠牲者を出す世界で一番危険な PKO となってしまった。さらにはマリ中部で土着の過激派グループ(マシナ解放前線)が産まれるなど新たな動きも見られる。

このような中、知己のマリ政府高官はアルジェ合意への不満を隠さない。そもそも、イスラム武装勢力はマリ国外からやってきたものだ。トゥアレグとの問題は植民地時代からのもの。国際社会は北部支援の重要性を言うが、南部も同じように貧しい。人口比率で言えば1割にも満たない北部に多くの予算を割く必要があるのか。そもそも「国民和解」とは何なのか。

マリの問題は複雑で重層的だ。知れば知るほど、その深さに圧倒される思いがする。「国民和解」一つとっても、そもそもマリの国境線は歴史的な連続性上にはない。人為的に引かれた国が、どのように国民国家足るのか。北部にも多くの民族がいる中でその代表制はどのように確保するのか、その上で誰と誰が和解すれば「国民和解」と言えるのか。

答えはないが、ある一定の価値を共有することが国家の要件であるとすれば、「和解」と言うよりも、新しい「国としての価値やストーリーを作ること」自体が求められているのではないかと考えるようになった。

その中で自分の役割は何か。それは日本人たちにマリをはじめとするサヘル地域のことを正しく伝えること。そして開発援助機関として、治安等厳しい状況下にあるが、マリの人々に寄り添い、自分の力で価値やストーリーを作り出せるように国際社会の支援の一翼を担うこと、に尽きると考えるのだ。

以上

◆活動紹介

「タンバクンダ、ケドゥグ、マタム州村落衛生改善プロジェクト 次への一歩」

プロジェクト総括 楠田一千代

ファイナルセミナーが開催された2月5日をはさみ、4年間共に活動したカウンターパートたちと一緒に関係ドナーを訪問した。プロジェクトの経験をまとめた各種ガイド・マニュアルを手渡し、プロジェクト成果を共有しつつ、村落衛生分野の今後について意見を交わすためである。どのドナーとも興味深い議論になり、村落衛生という分野の持つダイナミクさを肌で感じた。



建設されたトイレの仮引渡し
(マタム州マニヤム・バラナベ村(2014.04))

例えば、4年間、試行錯誤の連続だった。先行するドナーとの活動調整に手間取り、現場が混乱したり、一般的な改良型トイレの便槽が雨季に溢れそうになり、特別仕様のトイレを開発したり。タイルを敷設したトイレモデルは、現地のNGOが採用を始めている。プロジェクト成果の目玉、活動協調を促進する州プラットフォームへの支援も複数のドナーが後に続いてくれる。

大丈夫、プロジェクト成果は活かされる。JICA セネガル事務所もあるし。さようなら、セネガル。



州プラットフォーム能力強化研修
(マタム州 2015.05)



ブルキナファソでの第三国研修
JICA 案件 Ameli-Eaur のサイト訪問(2014.04)

◆われらが協力隊！「Jambaar (働き者) な若い先生たち」

26年度1次隊 小学校教育 石動徳子

配属先であるカオラック州教育人材養成研修センター。ここで、初等教育教員志望の研修生を対象に情操教育の授業を担当した。2年間で関わることができた研修生は約470名。彼らは現在、主にカオラック州・カフリン州の小学校に勤務している。私は彼らの働きぶりを見たくて、また単純に会いたくて、勤務校を訪問することにした。



研修センターでの授業

若い先生たちは、教員不足が顕著な村の小学校に配属されていることが多い。足を運ぶだけで一苦労。でも、彼らとの再会はやっぱり嬉しい。話していると、自分の配属当初を思い出し、とても懐かしい気持ちになる。また、私が紹介した授業法を、私以上に詳細に覚えてくれ、中には実践しようとしている先生もいる。こんな姿を見ると、私がやってきたことは些細なことかもしれないが無駄ではなかったのかも…と感じる。

そして何より、彼らの頑張りを見ることができるのは一番嬉しい。ある先生は、電気の通っていない村に仮住まい。家にはトイレや水浴び場がないので学校のものを使っている。その中で1・3年生を兼任し、授業時数を補うため通常午後の授業がない曜日や土日指指導している。そんな境遇でも、子供たちに分かりやすく指導し、家では懐中電灯を照らしながらノートの添削をしていた。また、少々ごちなかつた赴任当初に比べ、ユーモアも交えながら子供たちの興味を引きつけて指導している先生。実体験を伴って、算数の図形の法則を教えようとする先生。ムチを使わなくてもきちんと学級の統率をとっている先生。教室の清掃を子供たちと一緒にする先生。自分の学校の授業後、隣の学校でボランティアとして補習授業をしている先生…。私が目にしたのはほんの一部の若い先生たちの取り組みに過ぎない。それでもこんな彼らの頑張りを目にすると、セネガルの教育の未来に光を感じ、今後も何かの形で応援したいと思わずにはいられない。



元研修生の算数の授業
(運動場で測定してから図形の法則に導いている)

「教員養成に携わったこと」

26 年度 1 次隊 小学校教諭 松岡美希子

任期も終盤に差しかかり、任地を離れる寂しさと日本に帰る楽しみが、心の中で入り混じる日々です。

2015年10月頃から、私の配属先は徐々にそわそわとしてきました。JICA 無償資金協力の案件「ファティック州教員研修センター整備計画」が始動したからです。この案件は2012年に立ち上がっていましたが、昨年、ついに着工となりました。今年、ファティックで教員養成課程を終え、約140名が新規教員として巣立っていきましたが、この施設が完成すると、年間300名あまりの新規教員が養成できるようになるそうです。この案件がハード面の協力であるならば、私たち協力隊員の活動は、ソフト面からの協力となります。



「好きなものの絵を描いてみよう。」

「何を描いたらいいのかわからないよ。絵なんて描いたことがないんだ。」

教員養成課程で音楽・図工分野の実技授業を担当していた時の、私と学生たちとの会話である。絵を描いたことがない…。意味が分からなかった。お絵かきなんか、普通子どもの頃みんなするだろう。当たり前だと思っていた。

自分とは育ってきた環境がまったく違う学生たち。彼らとゼロから一緒に音楽や図工に取り組むのは、困難を極めたが、大変楽しい時間だった。まるで子どものような反応が返ってくることもあった。

「できたよ、見て！」 「あの歌、もう一回歌おうよ！」

セネガルの教育、情操科目の取り組みには、多くの課題があるのが現状だ。

養成課程を終えた若い先生たちが、情操科目の楽しさを広めるきっかけになってくれればと、今は小さく祈るだけである。



◆コラム 「兼轄国からこんにちは！～モーリタニア編 3 モーリタニアの正餐～」

ヌアディブ漁港拡張整備計画 通訳 橋爪雅彦

1997年からモーリタニアへ出張で来るようになり、また2015年5月から今回のプロジェクトでこの国に滞在するようになってからも、実に多くのモーリタニア人から招待されました。その時は、きまって正餐と言ってもいいような料理が振る舞われました。以下、その料理を紹介します。

1. *Hors d'oeuvre* ミックスサラダ



キュウリ、ニンジン、テンサイ、トモロコシ、インゲン、トマト、オリーブ、ピーマン等

2. *Fruit de mer* 海産物料理



焼伊勢エビ、ヤリイカ、舌ビラメ、揚げエビ、付け合せのレモンを絞って食べる

3. *Tagine de Poulet* 鶏のタジンヌ



黒い果実 Pruneax(干しスモモ)と一緒に長時間とろ火で煮込む

4. *Méchoui* ひつじの丸焼き



多くのアラブ圏で、人をもてなす最高のご馳走クスクスと一緒に食べる

5. *Thé à la menthe* お茶



お茶のグラスには、絶対に泡がなければならぬ

6. *Dessert* デザート 正餐の終わり



砂漠の民は果物を渴望する

◆ひといき「ダカールマラソンに参加して」

企画調査員(ボランティア事業) 笹子悠歩

前回赴任していたモロッコでは、高速道路を歩いている人を度々見かけることがあった。横断している人もいれば、道沿いを歩いている人もいる。日本ではあり得ない光景だ。その人たちを見るたびに、「なぜこの人達は、こんな危ない所を歩いているのだろう・・・」と不思議に思っていたが、まさか自分が高速道路を走る日が来るとは、夢にも思わなかった。

2016年2月14日(日)、バレンタインデーのこの日、フランスのEiffage社主催の第一回ダカールマラソンが、完成間近の高速道路で開催された。

事前の案内では、「5時半と6時と9時の3回、合計35ヶ所からスタート地点までの無料送迎バスがある」と書いてあった。この国で無料送迎バスがあること自体が不思議なくらいだったが、ちゃんとバスが来ることを信じて6時の送迎バスに間に合うように家を出た。

バス乗り場に着くと、すでに多くの方が送迎バスを待っていた。その中にJICAボランティアの姿もあり話を聞いたところ、どうやら5時半発のバスは来なかったらしい。送迎バスらしき車が近くに止まれば、全員がそちらに行き、ため息交じりに「違った・・・」と言いながら帰ってくる。

6時15分が過ぎ、
「これってもしかして、本当に来ないんじゃないだろうか？」
「今から来ても、スタート時間に間に合わないんじゃないだろうか？」
と思い始めた時、なんと本当に送迎バスが来た。

バスに揺られること約1時間。会場は高速道路上であるため、当たり前だがスタート地点に行くには高速道路に乗らなければならない。そしてもちろん会場付近は大渋滞だった。

結局バスを降りて歩く人もいる中、何とか会場に到着したのがフルマラソンのスタート予定時刻15分前。

「セネガルのことだから、当然スタート時間も30分以上遅れるだろう・・・」

と高をくっていたが、なんとたったの10分遅れでスタートをした。これはさすがに予想外だった。

「フルマラソン」がスタートした後、「ハーフ」そして「10km」の選手が次々にスタート。私は10kmに参加したが、高速道路を走る爽快感は日本では決して味わえないものだった。一番良かったことと言えば、日本の大会と違ってアップダウンがほぼ無いということだ。今まで何度かフルマラソンに参加したことがあるが、途中で急な上り坂を見る度に、絶望的な気持ちになっていたのに比べると、今回のコースは脚にも心にも優しいコースだった。

Eiffage社主催の第一回ダカールマラソンは、JICA関係者は全員無事に完走し、大会中は大きな問題もなく幕を閉じた。今回の会場となった高速道路の近辺には、新しい空港を建設中であり、これからどんどん開発が進んで行くことだろう。この記念すべき第一回に参加できた喜びを胸に、今後のセネガルの発展を陰ながら見守っていきたい。



◆事務所より

◆安全情報

◎テロ対策

繰り返しお知らせしている通り、フランス、マリ、ブルキナファソなどで、過激派によるテロが発生しています。特に金曜日の夜はテロ発生確率が高いため、外国人の多く集まる場所(ホテル、レストラン等)には、可能な限り近づかないよう引き続き十分にご注意ください。

◎デモ情報

最近教職員や鉱山従業者によるデモが続きましたが、2月16日には大統領の任期短縮公約に関し、憲法評議会が否決したことを大統領が表明したため、本件に関するデモの動きも始まっています。3月20日に国民投票が実施されるため、特に今月は動向を注視し、不審な集団などには近付かないようご注意ください。

◎犯罪/交通安全対策

残念ながら2月も犯罪被害、交通事故報告が複数ありました。特にスリや置き引きなどの被害は、事前に対策をしていれば防げたものも少なくありません。貴重品の管理や戸締りなど、小さな安全対策意識が、大きな被害を防ぎます。特にセネガル滞在に慣れてきたという方は、今一度「危険意識を常に持たなければいけない国に滞在している」という意識を持って、身の回りの防犯対策、交通安全対策を見直してください。

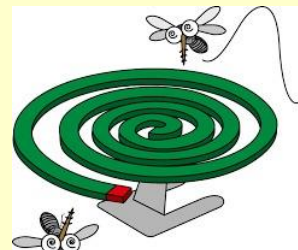
◆健康情報「ZIKA 熱(ジカ熱)」

ジカ熱についてはすでに「注意喚起」としてメールでお知らせしましたが、カーボヴェルデに渡航予定の方、蚊に刺されないように、お気をつけください。

素朴な疑問、質問等がありましたら、お気軽に健康管理員にお尋ねください。蚊が媒介する病気はたくさんあります。ジカ熱だけでなく、いろいろな感染症から身を守るために、しっかりと防蚊対策をしましょう。

◆研修・調査団、行事 等

- ・SHEP フォローアップミッション(3/6-3/16)
- ・ギニア 迅速検査機器研修(3/7-3/16)
- ・UHC 人間開発部出張
- ・カーボヴェルデ再生可能エネルギー情報収集・確認調査(3/7-4/1)
- ・UHC 有償専門家第2次アサイン(3/16-3/22)
- ・PAAME 人間開発部運営指導調査(3/20-3/25)



◆人の動き

- ・26年度1次隊(6名)離任(3/18・3/23)
- ・27年度9次隊(3名)着任(3/22)
- ・加藤所長離任(3/23)
- ・柿平資金協力調査員離任(3/29)

『すっかりアフリック(Suxali Afrique)』はウォロフ語で『アフリカの発展』を意味します。

セネガル事務所ホームページ内でもご覧いただけます！ <http://www.jica.go.jp/senegal/office/index.html>

◆メール配信希望募集

セネガル発『すっかりアフリック』(月刊)の配信希望を承ります。ご希望の方はその旨「JICA セネガル事務所広報タスク宛」に下記お問合せ先メールアドレスまでお知らせください。また、配信中止ご希望の方も同様にお知らせください。

◆記事投稿歓迎

記事の投稿を広く歓迎いたします(ただし掲載可否判断、校正等を編集部にてさせて頂くことがありますのでご了承ください)。皆さまからの興味深い記事をお待ちいたしております。

発行元:独立行政法人 国際協力機構(JICA) セネガル事務所

お問合せ: sn_oso_rep@jica.go.jp

JICAセネガル事務所 URL <http://www.jica.go.jp/senegal/>